人間学特論I				単位数	2単位
授業コード	M7110	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	崎川　修				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	人間社会論				

本授業の概要

現代の人間社会の様々な側面に見られるケアの営みについて，その人間論的，社会哲学的基盤を探求する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ケアの概念を人間の本質と関連付けて理解し説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	人間社会における実践上の困難の解決について、臨床哲学的視座から考察することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業時の発表の内容及び授業態度（50%）	1／2
2	期末レポート（50%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業計画
第 1 回：ケアの思想の問題領域について
第 2 回：ケアの概念について
第 3 回：現象としてのケア
第 4 回：知覚と欲求
第 5 回：意志と行為
第 6 回：経験の構造
第 7 回：参加者の発表と討論（ケアの本質）
第 8 回：受苦の人間学
第 9 回：ケアと宗教性
第 10 回：実存哲学におけるケア（ハイデガー）
第 11 回：ケアと自己実現（メイヤロフ）
第 12 回：ライフサイクルとケア（エリクソン）
第 13 回：ケアからドゥーリアへ（キテイ）
第 14 回：参加者の発表と討論（ケアの可能性）
第 15 回：総括

定期試験
期末レポートを提出してもらう。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習：事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。（60分） 復習：講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。（60分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
参加者と相談の上決定する。
オフィスアワー
オフィスアワーについては授業内で伝える。また随時メールでの質問、相談を受け付ける。
連絡先
sakikawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項

人間学特論II				単位数	2単位
授業コード	M7115	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	崎川　修				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	人間社会論				

本授業の概要

現代の人間社会の様々な側面に見られるケアの営みについて，その人間論的、社会哲学的基盤の上で，ケアが向かう社会的課題としての「喪失と悲嘆」について考察し，それらに向き合うためのケア実践の具体的なあり方を追求する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ケアの概念を人間の本質と関連付けて理解し説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	人間社会における実践上の困難の解決について、臨床哲学的視座から考察することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業時の発表及び授業態度（50%）	1／2
2	期末レポート（50%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業計画
第 １ 回：喪失と悲嘆の人間学
第 ２ 回：死の概念と文化
第 ３ 回：死生学の展開
第 ４ 回：悲嘆のプロセスとその多様性
第 ５ 回：グリーフケアの方法論
第 ６ 回：終生期ケアとスピリチュアルケア
第 ７ 回：参加者の発表と討論（死に向き合う）
第 ８ 回：トラウマの人間学
第 ９ 回：脳科学とトラウマ
第 10 回：〈魂〉の哲学
第 11 回：沈黙の意味論
第 12 回：身体性と語り
第 13 回：ケアとナラティヴ・コミュニティ
第 14 回：参加者の発表と討論（スピリチュアルケアの可能性）
第 15 回：総括

定期試験
期末レポートを提出してもらう。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習：事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。（60分） 復習：講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。（60分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
参加者と相談の上決定する。参考書は適宜紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワーについては授業内で伝える。また随時メールでの質問、相談を受け付ける。
連絡先
sakikawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項

女性学特論I				単位数	2単位
授業コード	M7120	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	山下　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	人間社会論				

本授業の概要

この授業では、1960年代の第二波フェミニズム以降、学際的な学問分野として登場してきたジェンダー研究を基盤において、現在私たちを取り巻いている諸問題の解決策を考えます。1970年代に男女の差異と不平等といった男性中心主義への批判と抵抗を目指して女性学が誕生し、近代社会における「女」の領域と位置付けられ、科学的な分析の対象とされてこなかった領域に目が向けられるようになりました。本講義はこれらの流れをふまえ、現時点でのジェンダー研究の立ち位置を確認し、ジェンダー視点での研究の射程の広がりを理解することを目指します。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	フェミニズムの歴史を知り、説明することができる	知識・技能／思考・判断・表現力
2	ジェンダー研究の意義を説明することができる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	現在のジェンダー問題の状況を把握し、その解決に資する案を提示することができる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業および討論への取り組み　30%	1／2／3
2	課題・レポート　30%	1／2／3
3	最終レポート　40%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．ガイダンス
２．フェミニズム運動の歴史
３．女性学の登場
４．男性学の登場
５．ジェンダー研究の射程
６．法律とジェンダー
７．社会制度とジェンダー
８．労働とジェンダー
９．アンペイド・ワーク
１０．ワーク・ライフ・バランス
１１．ジェンダーギャップ指数
１２．日本の社会保障制度（育児）
１３．日本の社会保障制度（介護）
１４．日本の社会保障制度（年金）
１５．総括

定期試験
最終レポート
試験のフィードバックの方法
課題レポートについて、コメントを付して返却する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
参考文献や資料はその都度紹介・配付する。
オフィスアワー
授業中に指示する 随時、メールで質問を受け付ける
連絡先
miki@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自分の常識を相対化するため、グループディスカッションやグループワークを行うことがある 現代社会のジェンダー問題を知るために、学外での実習を行うことがある

女性学特論II				単位数	2単位
授業コード	M7125	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	山下　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	人間社会論				

本授業の概要

この授業では、1960年代の第二波フェミニズム以降、学際的な学問分野として登場してきたジェンダー研究を基盤において、ジェンダー秩序を可視化すること、権力関係とそれを生み出す社会構造を読み解くことを目指します。ジェンダーやセクシュアリティへの関心が高まりつつある現代において、新しいジェンダー・ポリティクスを学び、実社会へ発信する力を養います。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	「標準」や「正常」がどのような力学のなかで構築されてきたのかを説明することができる	知識・技能／思考・判断・表現力
2	ジェンダー問題に関連する時事的課題に目を向け、批判的に考察することができる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	他者への想像力を大切にするとともに、俯瞰的な視野から自分の意見を述べることができる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業および討論への取り組み　30%	1／2／3
2	課題・レポート　30%	1／2／3
3	最終レポート　40%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．ガイダンス
２．フェミニストアプローチ
３．分析概念としてのジェンダー
４．ジェンダーの力学
５．性暴力・DV
６．デートDV
７．多様な性
８．性的マイノリティーとジェンダー
９．ハラスメント
１０．Me Too 運動
１１．メディアとジェンダー
１２．教育とジェンダー
１３．アンコンシャス・バイアス
１４．ジェンダー・ポリティクス
１５．総括

定期試験
最終レポート
試験のフィードバックの方法
課題レポートについて、コメントを付して返却する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
参考文献や資料はその都度紹介・配付する。
オフィスアワー
授業中に指示する 随時、メールで質問を受け付ける
連絡先
miki@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自分の常識を相対化するため、グループディスカッションやグループワークを行うことがある 現代社会のジェンダー問題を知るために、学外での実習を行うことがある

社会倫理学特論I				単位数	2単位
授業コード	M7130	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	崎川　修				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	人間社会論				

本授業の概要

「いのち」のケアをめぐる社会倫理学的な問題を，いわゆる「生命倫理」を起点としつつ，その哲学的基盤や思想史的背景をひも解きながら考察する。それらの問題の構造的契機である「生の統治」と，その非人間性に注目しつつ，より統合的な「環境倫理」の視点から「人間的生」の可能性を受け取り直す可能性を，カトリックの社会教説のうちに探っていく。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	生命倫理の諸問題についての知識を，その構造的契機や社会背景と結び付けて理解し説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	統合的な人間理解に基づいて、生命倫理にかかわる諸課題への応答可能性について主体的に考察することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業時の発表および授業態度（50%）	1／2
2	期末レポート（50%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回：「いのち」のケアをめぐる倫理的問い
第 ２ 回：生命倫理の問題圏
第 ３ 回：統治される生と死
第 ４ 回：出生前診断と人工妊娠中絶
第 ５ 回：人工生殖技術の諸問題
第 ６ 回：クローン技術の諸問題
第 ７ 回：参加者の発表と討論
第 ８ 回：反出生主義とは何か
第 ９ 回：生の否定の思想史
第 10 回：生殖技術と反出生主義
第 11 回：グリーフケアと「いのち」の倫理
第 12 回：終生期ケアの諸問題
第 13 回：生と死の尊厳をめぐって
第 14 回：参加者の発表と討論
第 15 回：総括

定期試験
期末レポートを提出してもらう。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習：事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。（60分） 復習：講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。（60分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
受講者と相談の上決定する。
オフィスアワー
オフィスアワーについては授業内で伝える。また随時メールでの質問、相談を受け付ける。
連絡先
sakikawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会倫理学特論II				単位数	2単位
授業コード	M7135	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	崎川　修				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	人間社会論				

本授業の概要

「いのち」のケアをめぐる社会倫理学的な問題を，それらの問題の構造的契機である「生の統治」と，その非人間性に注目しつつ，カトリックの社会教説のうちに，より統合的な「環境倫理」の視点から「人間的生」の可能性を受け取り直す可能性を探っていく。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	生命倫理の諸問題についての知識を，その構造的契機や社会背景と結び付けて理解し説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	統合的な人間理解に基づいて、生命倫理にかかわる諸課題への応答可能性について主体的に考察することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業時の発表および授業態度（50%）	1／2
2	期末レポート（50%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回：「いのち」のケアの射程
第 ２ 回：カトリック社会教説における「いのち」
第 ３ 回：回勅「フマーネ・ヴィテ」（教皇パウロ 6 世）
第 ４ 回：回勅「いのちの福音」（教皇ヨハネ・パウロ２世）
第 ５ 回：回勅「ラウダート・シ」（教皇フランシスコ）
第 ６ 回：「ラウダート・シ」を読む（第 1 章）
第 ７ 回：「ラウダート・シ」を読む（第 2 章）
第 ８ 回：「ラウダート・シ」を読む（第 3 章）
第 ９ 回：参加者の討論と発表（「ラウダート・シ」前半部）
第 10 回：「ラウダート・シ」を読む（第 4 章）
第 11 回：「ラウダート・シ」を読む（第 5 章）
第 12 回：「ラウダート・シ」を読む（第 6 章）
第 13 回：参加者の討論と発表（「ラウダート・シ」後半部）
第 14 回：環境思想と生命倫理～「くらし」からみる「いのち」
第 15 回：総括

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習：事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。（60分） 復習：講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。（60分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈必携書〉 『回勅　ラウダート・シ』教皇フランシスコ，カトリック中央協議会，2016 その他，適宜授業内で紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワーについては授業内で伝える。また随時メールでの質問、相談を受け付ける。
連絡先
sakikawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会福祉学特論I					単位数	2単位
授業コード	M7140	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	杉山　博昭					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	人間社会論					

本授業の概要

本授業では、日本キリスト教社会事業の歴史的展開を見ることで、日本の社会福祉の歴史的特質を把握する。キリシタン時代から、戦前の動向まで、カトリック・プロテスタントの社会事業実践、社会事業思想、教会の果たした役割などを考察していく。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	近代における、カトリック・プロテスタントの果たしてきた意義を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	近代社会の発展のなかでの社会事業の意義を理解し現代的意義を説明できる。	思考・判断・表現力／主体性
3	社会事業の歴史を踏まえて、現代の社会福祉を分析できる。	知識・技能／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	期末レポートで評価する　50%	1／2
2	討論での発言や授業への取り組みで評価する　50%	3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　キリスト教社会事業史研究の意義
2　キリスト教と社会福祉の歴史的構造
3　キリシタンと慈善事業
4　近代初期のカトリック慈善
　　修道会による諸活動について
5　プロテスタント慈善事業の展開
　　近代思想と慈善
6　初期キリスト教慈善事業の思想
7　キリスト教施設の展開
8　日清戦争後のキリスト教慈善事業
9　日露戦争後の感化救済事業とキリスト教
　　内務省の宗教統制の影響
10　植民地におけるキリスト教社会事業
　　台湾、朝鮮、満州でのキリスト教社会事業
11　大正デモクラシーとキリスト教社会事業
12　世界恐慌期のキリスト教社会事業の動向
　　救護法の影響・社会事業の経営問題
13　キリスト教の社会事業教育
　　ソーシャルワークの導入と専門教育
14　戦時下のキリスト教社会事業
　　戦時下の苦難と、その一方での戦争協力の問題
15　戦時下のキリスト教社会事業の思想・理論
　　戦時厚生事業論とキリスト教

定期試験
レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
社会福祉学特論Ⅱで説明する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必読書の該当箇所を読み、内容を整理する。授業後は、議論の内容を振り返りまとめる。これにはそれぞれ2～3時間要する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
日本キリスト教社会福祉学会編『日本キリスト教社会福祉の歴史』2014, ミネルヴァ書房
オフィスアワー
火曜　2限
連絡先
sugiyama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
事前に、次週の講義箇所を伝えるので、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。講義は討論を中心に行う。

社会福祉学特論II				単位数	2単位
授業コード	M7145	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	杉山　博昭				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	人間社会論				

本授業の概要

　本授業では、日本キリスト教社会福祉の第二次大戦後の歴史的展開を見ることで、日本の社会福祉の歴史的特質を把握する。カトリック・プロテスタントの社会福祉実践、社会福祉思想、教会と社会福祉の関係などを考察していく。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	福祉国家政策の中でのキリスト教社会福祉の意義を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	各教派の特徴を説明し、それぞれの社会福祉への貢献を議論することができる	知識・技能／主体性
3	今後の社会福祉政策において歴史を踏まえた提言をすることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	期末レポートで評価する　50%	1
2	授業態度・討論への参加状況・発言内容で評価する　50%	2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　第二次大戦後のキリスト教社会事業
２　人権問題とキリスト教
　　被差別部落・ハンセン病、障害者などの人権課題への取り組み
３　高度成長期のキリスト教社会福祉
４　カトリック社会福祉の動向
５　社会活動・医療活動の動き
６　福祉改革期のキリスト教社会福祉
　　介護保険、NPO の広がりにどう対処したのか
７　阪神・淡路大震災とキリスト教
８　各教派の歩みと福祉実践（１）
　　カトリックの教理と社会福祉の関係
９　各教派の歩みと福祉実践（２）
　　長老派の神学と社会福祉　組合派がなぜ多くの実践を生んだのか
10　各教派の歩みと福祉実践（３）
　　聖公会・メソジストの社会福祉の特徴
11　各教派の歩みと福祉実践（４）
　　バプテスト・その他は社会福祉にどう貢献したか
12　キリスト教団体と社会福祉
　　諸団体の概要と業績
13　キリスト教社会福祉の養成教育
　　国家資格化のなかでのキリスト教の役割
14　キリスト教社会福祉の課題と展望
15　まとめ-少子高齢化時代におけるキリスト教社会福祉の役割

定期試験
レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
他の授業を活用する。または、個別に研究室に来訪してディスカッションすることを歓迎する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必読書の該当箇所を読み、内容を整理する。授業後は、議論の内容を振り返りまとめる。これにはそれぞれ2～3時間要する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
日本キリスト教社会福祉学会編『日本キリスト教社会福祉の歴史』2012, ミネルヴァ書房
オフィスアワー
火曜　2限
連絡先
sugiyama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
事前に、次週の講義箇所を伝えるので、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。講義は討論を中心に行う。

地域福祉学特論I				単位数	2単位
授業コード	M7150	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	井村　圭壮				
時間割備考	院生と協議の上で設定				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	人間社会論				

本授業の概要

本講義では、現代日本における様々な社会問題の理解、今日的な福祉理念の理解などを踏まえ、社会福祉のあり方や地域福祉の推進方法について考えます。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	(1) 現代日本社会における様々な社会問題やそれらの背景に関して説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	(2) 今日的な福祉理念と社会福祉の考え方に関して説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	(3) 様々な地域福祉実践およびその推進方法に関して説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	(4) 地域自立生活を支える様々な制度に関して説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5	(5) 社会福祉／地域福祉推進を支える様々な機関・施設・団体に関して説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・小テスト（１０％）	1／2
2	課題発表（２５％）	1／2／3／4
3	中間テスト（２５％）	1／2／3
4	期末試験（４０％）	1／2／3／4／5
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 1 回　我が国の高齢化の状況／長寿化と少子化
第 2 回　急速な人口減少／社会保障費の増大と世代間格差
第 3 回　無縁社会を象徴する事件の増大／無縁社会とは何か
第 4 回　家族の変容と自助力の低下／地域の変容と共助力の低下
第 5 回　家族・地域機能の外部化・商品化／地域自立生活を送ることが大変に
第 6 回　超少子高齢化・無縁社会化により生きづらさや不安が増大／認知症高齢者の増加と無縁社会～セルフネグレクト、行方不明～
第 7 回　高齢者消費被害と無縁社会／虐待問題と無縁社会
第 8 回　自殺問題と無縁社会／貧困問題と無縁社会
第 9 回　ニート・引きこもり・不登校・保健室登校と無縁社会／ホームレス・累犯障害者と無縁社会
第 10 回　犯罪被害者と無縁社会／出所者の社会復帰支援
第 11 回　滞日外国人と無縁社会／依存症と無縁社会
第 12 回　ひとり親家庭と無縁社会／限界集落と無縁社会
第 13 回　交通難民と無縁社会／児童養護施設退所児童の自立支援
第 14 回　地域防災と地域福祉／災害支援とソーシャルワーク
第 15 回　制度の外側に様々な不安や生活困難が／制度に跨る複合・多問題家族の増大

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
『地域福祉の原理と方法（第３版）』２０１９年 ISBN　９７８−４−７６２０−２８７４−８ 井村圭壮・相澤譲治編著、学文社
オフィスアワー
質問は授業後に教室で受け付ける。 また、随時メールでの質問も受け付ける。
連絡先
qqs59pbd@utopia.ocn.ne.jp
留意事項
教材指定の図書に基づいて進めるので、年間スケジュールに沿って事前にテキストの該当か所を読んでプレゼン資料にまとめて持参していただき、その発表をもとにディスカッションを行います。

地域福祉学特論II				単位数	2単位
授業コード	M7155	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	井村　圭壮				
時間割備考	院生と協議の上で設定				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	人間社会論				

本授業の概要

本講義では、現代日本における様々な社会問題の理解、今日的な福祉理念の理解などを踏まえ、社会福祉のあり方や地域福祉の推進方法について考えます。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	(1) 現代日本社会における様々な社会問題やそれらの背景に関して教授できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	(2) 今日的な福祉理念と社会福祉の考え方に関して教授できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	(3) 様々な地域福祉実践およびその推進方法に関して教授できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	(4) 地域自立生活を支える様々な制度に関して教授できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5	(5) 社会福祉／地域福祉推進を支える様々な機関・施設・団体に関して教授できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・小テスト（１０％）	1／2／3
2	課題発表（２５％）	1／2／3／4
3	中間テスト（２５％）	1／2／3
4	期末試験（４０％）	1／2／3／4／5
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回　国による制度的福祉の限界と自助・共助／社会資源の種類と特徴
第 ２ 回　住民福祉活動の２形態／ボランティア活動、住民参加型在宅福祉サービス
第 ３ 回　ＮＰＯ活動の現状／地域を基盤とした住民福祉活動
第 ４ 回　コミュニティ活動の代表例／「ふれあいサロン」と「見守り活動」
第 ５ 回　住民は何を担うのか／安心担保を何処に置くか～求められる価値の転換～
第 ６ 回　わが町型地域福祉の必要／ニーズの普遍化と地域アセスメント
第 ７ 回　地域アセスメントの必要性／地域アセスメントの方法と圏域
第 ８ 回　小地域福祉活動計画／地域福祉計画・地域福祉活動計画
第 ９ 回　社会福祉協議会とは／市町村社会福祉協議会活動のあり方
第 10 回　市町村社会福祉協議会の組織／福祉施設の地域福祉機能
第 11 回　民生委員・児童委員とは／民生児童委員活動と課題／民生児童委員協議会とは
第 12 回　地域福祉推進を支える財源～補助金・助成金・共同募金～
第 13 回　サービス利用者の権利擁護の仕組み～成年後見制度・日常生活自立支援事業～
第 14 回　サービス利用者の権利擁護の仕組み～第三者評価事業・苦情解決システム～
第 15 回　2000 年以降の社会福祉理念／公私関係論

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
講義時に、適宜、資料を配布する。
オフィスアワー
質問は授業後に教室で受け付ける。 また、随時メールでの質問も受け付ける。
連絡先
qqs59pbd@utopia.ocn.ne.jp
留意事項
地域福祉学特論Ｉとセットでの履修を勧めます。

人間社会論演習I				単位数	2単位
授業コード	M7160	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	杉山　博昭				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	人間社会論				

本授業の概要

　本授業では、社会福祉関係の文献を順次講読し、社会福祉の思想理論について検討する。格差・貧困、介護労働、ジェンダー、福祉国家、地域福祉など、個々の課題と、社会福祉原論とを結び付けて検討していく

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	文献を読みこなし、社会福祉をめぐる課題について提言することができる。 到達目標２　政策や実践について、主体的に議論することができる。 到達目標３　社会福祉の理論について具体的に説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	政策や実践について、主体的に議論することができる。	知識・技能／主体性
3	社会福祉の理論について具体的に説明することができる。	知識・技能／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	発表態度・発表内容　50%	1／2
2	2 回のレポートにおいて到達目標を評価する　50%	3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　社会福祉原理論研究の意義と課題
　　社会福祉研究における「原論」の意義
２　格差・貧困問題と社会福祉
　　子どもの貧困　女性の貧困の現実
３　生存権と社会福祉
　　諸外国の動向　朝日訴訟などの憲法訴訟
４　社会福祉の歴史認識−社会福祉の歴史的性格とは何か
５　社会福祉史の具体的課題
　　慈善事業の特質　社会事業の形成　戦時厚生事業
６　社会福祉におけるソーシャルワークの役割
７　ソーシャルワーク論の変遷
　　アメリカにおけるソーシャルワークの展開過程から
８　ソーシャルワークの国際動向
９　社会福祉の政策・理論研究
　　古川孝順・京極高宣の議論から
10　戦後の社会福祉理論（１）　岡村理論
11　戦後の社会福祉理論（２）　孝橋理論
12　戦後の社会福祉理論（３）　一番ヶ瀬・真田・高島理論
13　戦後の社会福祉理論（４）　三浦理論
14　社会福祉の歴史研究
　　吉田久一の研究をめぐる評価と近年の研究動向
15　社会福祉の法体系
　　近年の法改正の特徴と今後の展望

定期試験
期末にレポートを課す
試験のフィードバックの方法
他の授業で触れる。またた随時、研究室を訪問して質問してもらいたい。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
関連文献を読み、内容を整理する。授業後はその関連文献との関係を確認する。これにはそれぞれ2～3時間を要する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
大友信勝・永岡正己編『社会福祉原論の課題と展望』,2013年, 高菅出版 その他社会福祉の新刊書等を適宜紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワー　火曜2限
連絡先
sugiyama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
発表者だけでなく、受講者全員が該当文献を読みこなしたうえで主体的に参加すること。

人間社会論演習II				単位数	2単位
授業コード	M7165	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	杉山　博昭				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	人間社会論				

本授業の概要

　本授業では、社会福祉関係の文献を順次講読し、社会福祉の思想理論について検討する。社会福祉実践の専門性、ジェンダー、地域包括ケアなど、個々の課題と、社会福祉原論とを結び付けて検討していく

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	福祉国家政策などマクロな視点での社会福祉の議論をすることができる。 専門教育など福祉実践の性格を理解し、実践のあり方を説明するこ とができる。 到達目標３　わが国の地域の性格を踏まえて地域での福祉活動を提案することが できる。	知識・技能
2	専門教育など福祉実践の性格を理解し、実践のあり方を説明することができる。	思考・判断・表現力
3	わが国の地域の性格を踏まえて地域での福祉活動を提案することができる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	発表態度・発表内容の総合的判断　50%	1／2
2	2 回のレポートでの提案	3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　社会福祉と社会保障
２　福祉国家をめぐって
　　福祉国家論の系譜と福祉国家政策
３　社会福祉実践の歴史的系譜
　　慈善から社会福祉への変遷
４　戦前における専門職性の到達点
５　戦後の社会福祉専門教育
　　専門教育の創始から国家資格制定前まで
６　国家資格化の意義と限界
　　国家資格の概要と課題
７　社会福祉における介護労働
　　介護労働をめぐる近年の議論と労働力不足への対応
８　社会福祉とジェンダー
９　政策動向と社会福祉
10　新自由主義路線の社会福祉への影響
11　社会福祉経営
　　民間非営利、民間営利の経営の特質
12　コミュニティと社会福祉
13　地域における福祉の創造
14　地域包括ケアシステム
　　実現に向けての方策と課題
15　少子高齢化のなかでの社会福祉の展望
　　財源確保や人材確保の課題

定期試験
期末にレポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
人間社会論演習Ⅱで行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
関連の文献をあらかじめ読んでおくこと。授業後は関連文献と授業内容の関係を確認する。これにはそれぞれ2～3時間要する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
大友信勝・永岡正己編『社会福祉原論の課題と展望』, 2013年, 高菅出版 その他社会福祉の新刊書等を適宜紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワー　火曜2限
連絡先
sugiyama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
発表者だけでなく、受講者全員が該当文献を読みこなしたうえで主体的に参加すること。

日本民俗学特論I				単位数	2単位
授業コード	M7210	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	小嶋　博巳				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活文化論				

本授業の概要

日本の民俗宗教の基本構造と歴史について講ずる。まず前提として民俗学の基本的な立脚点，および〈民俗〉概念について考察し，ついで、民俗宗教の各領域の研究成果を検討してゆく。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	日本民俗学の立脚点を理解し，説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	民俗宗教に関する基本的な知識に立って日本の民俗文化および宗教文化を理解し，説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	民俗学および関連分野の論文が読解できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	期末に課すレポートによって，上記の到達目標の達成度を評価する。	1／2／3
2	授業中に課した口頭発表を評価に加味する。	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．民俗学的認識の誕生
２．柳田國男の仕事
３．〈民俗〉と〈文化〉，〈民俗〉と〈生活〉
４．フォークロリズムをめぐる議論
５．民俗宗教とは
６．ムラと村落祭祀
７．村組と地縁集団の祭祀
８．宮座と当屋制
９．同族と同族祭祀
10．先祖祭祀
11．年中行事の構造
12．人の一生と霊魂観
13．祭儀と祝祭
14．神がかりとシャーマニズム
15．〈俗信〉という概念

定期試験
期末にレポートを課す。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業のサブテーマごとに関係論文の講読が必要。週ごとに平均１～２時間程度。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈参考文献〉授業中に提示する。その他，必要な資料は配付する。
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s4012@m.ndsu.ac.jp
留意事項

日本民俗学特論II				単位数	2単位
授業コード	M7215	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	小嶋　博巳				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活文化論				

本授業の概要

遍歴という行動様式と遍歴者の存在に注目し，日本の社会におけるその諸相を探る。とくに定住と遍歴の接点にある〈巡礼〉のさまざまなあり様をめぐり，考察する。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	日本の社会における種々の遍歴の実態が説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	民俗宗教が遍歴と定住の交渉を重要な契機の一つとして成り立っていることを理解し，説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	期末に課すレポートによって，上記の到達目標の達成度を評価する。	1／2
2	授業中に課した口頭発表を評価に加味する。	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．漂泊・遍歴の諸相
２．巡礼という回路
３．巡礼類型論
４．プロの巡礼、アマチュアの巡礼
５．地域的小巡礼とめぐりの習俗
６．社会的弱者の巡礼
７．ハンセン病と巡礼
８．乞食巡礼の民俗
９．もの乞いの思想
10．六十六部日本廻国
11．持経者の遍歴と如法経信仰
12．六十六部縁起
13．王権の神話・儀礼と遍歴
14．職業的廻国者集団の活動
15．遍歴と定住の交渉

定期試験
期末にレポートを課す。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業のサブテーマごとに関係論文の講読が必要。週ごとに平均１～２時間程度。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈参考文献〉授業中に提示する。その他，必要な資料は配付する。
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s4012@m.ndsu.ac.jp
留意事項

比較文化特論Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	M7220	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	紺谷　亮一				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活文化論				

本授業の概要

　西アジアの人文地理、自然地理、言語を取り上げ、各地域の特徴を概観しながら、今日の西アジア世界の実態にせまる。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	西アジアの自然、文化を通して、現代西アジア世界の諸問題の要因について説明できる。	
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	口頭発表 50%、課題レポート 50%	1
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回：講義概要
第 ２ 回：西アジアの地形
第 ３ 回：西アジアの気候
第 ４ 回：西アジアの民族構成
第 ５ 回：西アジアの人文自然地理に関する論文講読
第 ６ 回：西アジアの先史狩猟採集民
第 ７ 回：西アジアの遊牧民
第 ８ 回：西アジアの農耕民
第 ９ 回：西アジアの民族学に関する論文講読
第 10 回：西アジアの食文化
第 11 回：西アジアの住居文化
第 12 回：西アジアの言語文化
第 13 回：トルコ語の文化的背景
第 14 回：西アジアの言語に関する論文講読
第 15 回：まとめ

定期試験
試験のフィードバックの方法
講義中に指示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
講義中に指示する。
オフィスアワー
講義中に指示する。
連絡先
kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項
一部、演習形式も取り入れる。

比較文化特論II				単位数	2単位
授業コード	M7225	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	紺谷　亮一				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活文化論				

本授業の概要

　西アジアの近現代史を取り上げ、特に取ることシリアの事例を概観しながら、
今日の西アジア世界の実態にせまる。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	トルコ、シリアの近現代史を通して、現代西アジア世界の諸問題の要因について説明できる。	
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	口頭発表 50%、課題レポート 50%	1
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回：講義概要
第 ２ 回：オスマン・トルコ帝国の崩壊
第 ３ 回：ケマル・アタテュルクによるトルコ革命
第 ４ 回：トルコ共和国の成立
第 ５ 回：トルコの現状
第 ６ 回：イスタンブルの歴史的景観
第 ７ 回：トルコ語①文法
第 ８ 回：トルコ語②新聞見出し
第 ９ 回：トルコ語③テレビニュース
第 10 回：「アラブの春」とは何か
第 11 回：シリア内乱の要因
第 12 回：アレッポの歴史的景観
第 13 回：日本・トルコ交渉史
第 14 回：現代西アジアに関する論文講読
第 15 回：まとめ

定期試験
試験のフィードバックの方法
講義中に指示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
講義中に指示する。
オフィスアワー
講義中に指示する。
連絡先
kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項
一部、演習形式も取り入れる。

家族・社会構造特論I				単位数	2単位
授業コード	M7230	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	山下　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	社会学				

本授業の概要

家族社会学が取り組んできた領域やテーマを広くとりあげ、家族社会学の理論を説明する
家族社会学の分析視角について解説するとともに、今日的課題について考察する
並行して古典的文献をいくつか取り上げ輪読形式で報告、討論を行い、理解を深める

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	家族研究の分析視角を理解し、使えるようになる	知識・技能／思考・判断・表現力
2	家族に関する古典的文献を読むことにより、家族研究の潮流を理解し、説明することができる	知識・技能／思考・判断・表現力
3	今日的な課題への取り組みを明らかにしてその成果を問うことができる	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業および討論への取り組み　30%	1／2／3
2	中間報告　20%	1／2／3
3	課題・レポート　25%	1／2／3
4	最終報告　25%	1／2／3
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回　講義概要　オリエンテーション
第 ２ 回　家族社会学の分析視角
第 ３ 回　輪読①ラドクリフ・ブラウン『未開社会における構造と機能』
第 ４ 回　歴史社会学的アプローチ
第 ５ 回　人口学的アプローチ
第 ６ 回　ジェンダー研究的アプローチ
第 ７ 回　エスノメソドロジー的アプローチ
第 ８ 回　輪読②　マリノウスキー『性・家族・社会』
第 ９ 回　構造機能論的アプローチ
第 10 回　家族ストレス論的アプローチ
第 11 回　相互作用論的アプローチ
第 12 回　交換論的アプローチ
第 13 回　輪読③　マードック『社会構造』
第 14 回　ライフコース論的アプローチ
第 15 回　ネットワーク論的アプローチ

定期試験
口述試験を行う
試験のフィードバックの方法
複数回の課題レポートについて、コメントを付して返却する 口述試験について、必要な助言を与える
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
参考図書：野々山久也・清水浩昭編 2001、『家族社会学の分析視角』、ミネルヴァ書房.
オフィスアワー
授業中に指示する 随時、メールで質問を受け付ける
連絡先
miki@m.ndsu.ac.jp
留意事項

家族・社会構造特論II				単位数	2単位
授業コード	M7235	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	山下　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	社会学				

本授業の概要

この授業では、家族社会学の研究成果を解説したうえで、現代の家族についての理解を深める
とくに日本の家族を対象に、家族社会学の幅の広さについて具体的事例を取り上げながら説明する
家族にかかわる基本的文献および今日的課題に関する文献を随時紹介し、家族社会学の研究の可能性に言及する

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	家族社会学研究の基本を理解する	知識・技能／思考・判断・表現力
2	現代の家族現象を社会環境との関連において説明できるようになる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	家族研究に関するさらなる理論的展開の可能性を論じることができるようになる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業および討論への取り組み　30%	1／2／3
2	課題・レポート　30%	1／2／3
3	最終レポート　40%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 1 回　講義概要　家族社会学研究の基本
第 2 回　日本の家族変動
第 3 回　恋愛と結婚
第 4 回　子育てにみる家族主義の限界
第 5 回　討論①　第 2 回～第 4 回をふまえて
第 6 回　介護の「再家族化」
第 7 回　家族階層と教育機会
第 8 回　生活の共同性と家族主義
第 9 回　討論②　第 6 回～第 8 回をふまえて
第 10 回　「お金」と「愛情」の間
第 11 回　セクシュアル・マイノリティの家族
第 12 回　成人子と親との関係
第 13 回　討論③　第 10 回～第 12 回をふまえて
第 14 回　家族と政治・法律
第 15 回　討論④・まとめ

定期試験
口述試験
試験のフィードバックの方法
複数回の課題レポートについて、コメントを付して返却する 口述試験について、必要な助言を与える
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
参考図書：永田夏来・松木洋人編 2017、『入門家族社会学』新泉社.
オフィスアワー
授業中に指示する 随時、メールで質問を受け付ける
連絡先
miki@m.ndsu.ac.jp
留意事項

食生活文化論特論I					単位数	2単位
授業コード	M7240	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	清水　純一					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	生活文化論					

本授業の概要

本授業では食の生産から消費に至るまでを総合的に分析する「フードシステム論」の枠組みを経済学・経営学・社会学・食文化論を駆使して説明する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	フードシステム論の枠組みを活用して食生活の変化を分析できる。	思考・判断・表現力／主体性
2	学際的アプローチを可能にする、思考能力、方法論を獲得する。	
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業の理解度と応用能力を発表（50%）および期末レポート（50%）によって評価する。	1／2
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回：日本のフードシステム
第 ２ 回：食生活の現状
第 ３ 回：食生活の変化の要因
第 ４ 回：食品製造業
第 ５ 回：食品流通１（卸売）
第 ６ 回：食品流通２（小売）
第 ７ 回：外食産業
第 ８ 回：中食産業
第 ９ 回：日本の農業
第 10 回：食料の輸入と自給率
第 11 回：世界の人口と食料問題
第 12 回：世界の食料貿易
第 13 回：食料をめぐる貿易問題
第 14 回：食の安全と消費者の信頼
第 15 回：食料をめぐるいくつかの問題

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）各回の該当する章を事前に読み、要点をまとめたシートを作成する。（120分） （復習）各章末に演習課題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
<必携書> 『フードシステム入門：基礎からの食料経済学』2019年、ISBN 978-4-4679-0636-2、薬師寺哲郎・中川 隆、建帛社
オフィスアワー
毎週火曜日４時限（14:45-16:15）。
連絡先
sr.shimizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項

食生活文化論特論II				単位数	2単位
授業コード	M7245	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	清水　純一				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活文化論				

本授業の概要

本授業では、主として日本の高度経済成長以後を対象にし、社会・経済構造の変化による食料消費の変化が、食生活に与えた影響を食料経済学の立場から分析する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	経済学の立場から食生活・食文化を分析するための、基本的な経済学のツールを修得する。	
2	到達目標１で蓄積した知識とツールを利用し、現状の食生活を分析する能力を獲得する。	主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業の理解度と応用能力を発表（50%）.	1／2
2	期末レポート（50%）。	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回 ： ミクロ経済学の基礎１（消費者のインセンティブ）
第 ２ 回 ： ミクロ経済学の基礎２（生産者のインセンティブ）
第 ３ 回 ： 経済学と農業的世界
第 ４ 回 ： 経済発展と農業
第 ５ 回 ： 食料の需要と供給
第 ６ 回 ： 農業生産と土地
第 ７ 回 ： 農業の経営組織
第 ８ 回 ： 農産物の市場組織
第 ９ 回 ： 農産物貿易と農業保護政策
第 10 回 ： 世界の人口と食料
第 11 回 ： 食生活の成熟とフードシステム
第 12 回 ： 農業の近代化
第 13 回 ： 資源・環境と農業
第 14 回 ： 日本の農業と食料
第 15 回 ： 農業政策と農業経済学

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）各回の該当する章を事前に読み、要点をまとめたシートを作成する。（120分） （復習）各章末に演習課題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
<必携書> 『農業経済学［第5版］2020年、ISBN 978-4-00-028922-1、荏開津典生・鈴木宣弘、岩波書店
オフィスアワー
毎週火曜日４時限（14:45-16:15）
連絡先
sr.shimizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
与えられた課題を報告する一部演習形式も取り入れる。

生活文化論演習I				単位数	2単位
授業コード	M7250	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	清水　純一				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活文化論				

本授業の概要

本授業では、人間生活の基盤をなす、生活文化に関する演習を行う。人文科学、社会科学の両面から生活文化を観察し、今後の我々の生活文化を占うために、調査・分析する力を養う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	統計学を駆使して、当該分野のデータを分析できるツールを身につける。	
2	当該分野の基礎的な文献を読み解き、批評する能力を修得する。	
3	オリジナルな論考を論理的に展開できる研究能力を獲得する。	
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業中の発表内容およびディスカッションへの参加姿勢（50%）。	3
2	期末レポート（50%）。	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１週　：データの要約
第２週　：データの見せ方
第３週　：事象と確率分布
第４週　：標本からの母集団の推測
第５週　：仮説検定とは何か
第６週　：平均値の仮説検定
第７週　：さまざまな仮説検定
第８週　：分散分析
第９週　：回帰分析とは何か
第10週：単純回帰分析
第11週：重回帰モデル
第12週：標準的家庭からの逸脱
第13週：応用回帰分析
第14週：多変量解析
第15週：カテゴリカルデータの分析

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）各回の該当する章を事前に読み、分析例を自分で再現してみる。（120分） （復習）毎回終了後に出題される演習課題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
（必携書） 『文系のためのデータ分析入門』、2017年、ISBN 978-4-502-24411-7、長島直樹・石田 実・李 振、中央経済社
オフィスアワー
毎週火曜日４時限（14:45-16:15）
連絡先
sr.shimizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する学生には、統計学を使用するため、ある程度の数学の基礎能力が求められる。事前に高校までの数学を復習しておくこと。予習と復習に時間をかけること。特に復習が大事である。

生活文化論演習II				単位数	2単位
授業コード	M7255	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	清水　純一				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活文化論				

本授業の概要

本授業では、生活文化に関する研究論文を執筆するための基礎となる論文作法に関する演習を行う。これにより、修士論文に求められる「型」を身につける。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	当該分野の基礎的な文献を読み解き、批評する能力を修得する。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	オリジナルな論考を論理的に展開できる研究能力を獲得する。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業中の発表内容（50%）。	2
2	ディスカッションへの参加姿勢（50%）。	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１週　：論文とは何か
第２週　：科学と論文
第３週　：主題と対象
第４週　：はじめての調べ方
第５週　：方法論（調査設計）
第６週　：先行研究と学問体系（ディシプリン）
第７週　：方法（メソッド））
第８週　：研究計画書とプレゼンテーション
第９週　：構成と文書
第10週：パラグラフライティング演習
第11週：注記と要約
第12週：校正と仕上げ
第13週：修士論文報告練習（1）初回
第14週：修士論文報告練習（2）修正版
第15週：修士論文報告練習（3）最終報告

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）毎回、各自に発表を割り当てるので、発表内容のレジュメを作成する。（120分） （復習）演習中に指摘された事項に基づいて修正したレジュメをmanaba folio に投稿する。（60分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
（必携書） 『基礎からわかる　論文の書き方』、2022年、ISBN 978-4-06-528086-7、小熊英二、講談社
オフィスアワー
火曜日4時限（14:45-16:15）
連絡先
sr.shimizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項

生活経営学特論I				単位数	2単位
授業コード	M7310	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	豊田　尚吾				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活経営論				

本授業の概要

生活者がウェルビーイング（よい生活）を実現するためのライフマネジメントとはいかなるものかを学ぶ。その際、企業など組織の経営理論、実践を参考にするとともに、生活を設計する前提となる、個人の価値観にも焦点をあてる。
それにより、生活経営を人間生活とリンクさせ、深みのある考察、研究を行う視点を養う。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	上記学習を通じて、生活経営に関する現実と理論を習得するとともに、課題の発見、仮説の立案、説得的な検証を実践する能力を養う。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	自らの関心に応じて、資料やデータを取集し、それをまとめて効果的な発表をすることができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業中の発表内容・姿勢（75%）	1／2／3
2	期末レポート（25%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

長年、企業人としてビジネスの現場に携わっていたことを生かし、履修者の持っている問題意識やリサーチクエスチョンを、実践的な価値にもつなげられるような指導を心掛ける。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回　生活経営とは（講義概要を含む）
第 ２ 回　生活を取り巻く環境変化（少子高齢社会、環境問題など）
第 ３ 回　ライフプランニング（生活設計）
第 ４ 回　生活経営と企業経営（類似と相違）
第 ５ 回　経営戦略論
第 ６ 回　マーケティング戦略論（１）ＳＴＰ
第 ７ 回　マーケティング戦略論（２）４Ｐ
第 ８ 回　ブランド戦略
第 ９ 回　ケーススタディ
第 10 回　生活に生かす企業経営
第 11 回　生活資産のマネジメント
第 12 回　各種制度と地域社会へのかかわり
第 13 回　消費者問題と消費者市民社会
第 14 回　ソーシャルデザインと倫理的消費
第 15 回　ミクロ経済学とマクロ経済学

定期試験
期末レポート
試験のフィードバックの方法
manabaなどを用いて個別にフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
自分の問題意識を明確に持ち、自主的により多くの既存研究にあたり、知識を広げるとともに自分なりの見方や論点を授業前に見つけておくことが必要である。 授業はそれをもとにしたディスカッションが主なものとなる。 従って授業の前後で同等の（少なくともそれぞれ45分以上の）学習が不可欠である。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
（参考書）　『ミクロ経済学』西村和雄（東洋経済新報社） 『マクロ経済学』斎藤誠他（有斐閣） 他にもテーマに応じて参考になる図書、資料を適宜紹介する。
オフィスアワー
月曜4限
連絡先
toyota@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修者の研究テーマに応じて内容を変更することがある。

生活経営学特論II				単位数	2単位
授業コード	M7315	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	豊田　尚吾				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活経営論				

本授業の概要

生活者がウェルビーイング（よい生活）を実現するためのライフマネジメントとはいかなるものかを学ぶ。その際、企業など組織の経営理論、実践を参考にするとともに、生活を設計する前提となる、個人の価値観にも焦点をあてる。
さらに人間生活を経営・経済の観点から見る新しい試みとして消費者行動論、行動経済学を取り上げ、生活経営の広がりも学習する。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	上記学習を通じて、生活経営に関する現実と理論を習得するとともに、課題の発見、仮説の立案、説得的な検証を実践する能力を養う。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	自らの関心に応じて、資料やデータを取集し、それをまとめて効果的な発表をすることができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業中の発表内容・姿勢（75%）	1／2／3
2	期末レポート（25%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

長年、企業人としてビジネスの現場に携わっていたことを生かし、履修者の持っている問題意識やリサーチクエスチョンを、実践的な価値にもつなげられるような指導を心掛ける。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回　家計消費の構造分析
第 ２ 回　市場メカニズムの機能と理論
第 ３ 回　雇用、賃金とキャリア論
第 ４ 回　政府・企業・ＮＰＯの活動と役割
第 ５ 回　財政・金融政策
第 ６ 回　グローバル経済と地域経済
第 ７ 回　サステイナブルな社会とは
第 ８ 回　生活経済学を生活経営に生かす
第 ９ 回　ウェルビーイングと主観的幸福感
第 10 回　消費者行動の基本モデル
第 11 回　生活者のアノマリー
第 12 回　行動経済学で生活経営を考える
第 13 回　進化心理学とウェルビーイングの実現
第 14 回　未来を創る地域づくり
第 15 回　まとめ・総括

定期試験
期末レポート
試験のフィードバックの方法
manabaなどを用いて個別にフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
自分の問題意識を明確に持ち、自主的により多くの既存研究にあたり、知識を広げるとともに自分なりの見方や論点を授業前に見つけておくことが必要である。 授業はそれをもとにしたディスカッションが主なものとなる。 従って授業の前後で同等の（少なくともそれぞれ45分以上の）学習が不可欠である。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
（参考書）　『ミクロ経済学』西村和雄（東洋経済新報社） 『マクロ経済学』斎藤誠他（有斐閣） 他にもテーマに応じて参考になる図書、資料を適宜紹介する。
オフィスアワー
月曜4限
連絡先
toyota@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修者の研究テーマに応じて内容を変更することがある。

消費経済学特論I				単位数	2単位
授業コード	M7330	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	葉口　英子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活経営論				

本授業の概要

私たちは、ありとあらゆる財・サービスに囲まれて生活をしている。そうした環境において私たちはいかなる意思決定や行動に基づき、財やサービスを選択しているのか。本授業では、基礎経済学視点から、まず現代の経済社会や市場の成り立ちに対する理解を深める。次に消費者について、経済・経営理論の視点から基礎知識や理論を習得する。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	現代の経済社会と消費者の活動に関する基礎的な知識や理論を説明できる。	知識・技能
2	現代の経済社会と消費者の活動に関して、自身の問題意識と照らし合わせ、調査学習を実行できる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	消費経済学の基礎的な知識や理論の習得度についてディスカッションとレポートの両方で評価する。 ディスカッション（30%）	1／2
2	レポート（70%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．経済社会と消費者の活動
２．市場経済体制
３．需要と供給の法則
４．消費者の利益
５．消費者とは何か
６．消費者の予算制約
７．消費者の選好と無差別曲線
８．最適な消費決定
９．市場価格と消費
10. 代替効果と所得効果
11. 消費者の需要曲線
12. 需要の価格弾力性
13. 需要の交差弾力性
14. 所得と消費
15. ライフサイクル仮説と恒常所得仮説

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習）各回の授業前に備えて、テキストを熟読する（１時間）。 復習）各回の授業後に再度、習得した内容に対し理解を深める（１時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
嶋村紘輝・酒井徹（著）「経済と消費者（入門 消費経済学 1）」2009年,慶應義塾大学出版会 青木幸弘・新倉貴志・佐々木壮太郎・松下光司（著）「消費者行動論」2012 年有斐閣
オフィスアワー
オフィスアワーについては第1回目の授業にて周知する。
連絡先
haguchi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
授業に関する連絡、資料のやりとり、事前事後課題の提出などmanabaを活用する場合がある。

消費経済学特論II				単位数	2単位
授業コード	M7335	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	葉口　英子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活経営論				

本授業の概要

本授業では、行動経済学視点から、消費者の意思決定や消費行動・心理について知識を深める。
また ICT 時代を迎えた新しいマーケティングやブランド戦略について、市場や消費者行動を捉え、現代の消費社会に対する洞察をおこなう。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	消費、貯蓄、投資といった経済行動の意思決定に関する知識や理論を説明できる。	知識・技能
2	自身の研究テーマについて消費経済学の視点から考察できる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	消費経済学の知識や理論の習得度に加え、それらを自身の研究テーマへと結びつける考察の深度についてレポートと小論文による総合評価とする。 レポート（40%）	1／2
2	小論文（60%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．行動経済学とは何か
２．人間はどこまで合理的か？
３．意思決定と時間割引率の関係
４．消費行動と購買行動
５．コモデイティ商品に対する消費者心理
６．高商品における消費者心理
７．消費者心理に対する総称ブランドの活用
８．消費行動とマーケティング
９．消費者行動の分析フレーム
10．購買意思決定の分析
11．情報と消費者の活動
12．完全競争市場と不完全情報の市場
13．逆選択とその解決策
14．モラルハザードとその解決策
15．情報化時代の消費者行動

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）授業ではmanabaを活用して、次週のテーマに関する参考資料を読むこと、動画に目を通すといった事前課題を出す（約1時間）。 （復習）講義内で課題レポートに取り組む作業を課す。授業内の資料は、授業後にmanabaで提示するので復習すること（約１時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
大垣昌夫・田中沙織（著）「行動経済学（新版）」有斐閣 2018 年 田中洋（著）「消費者行動論」中央経済社 2015 年
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。質問は随時メールにて受け付ける。
連絡先
haguchi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
授業に関する連絡、資料のやりとり、事前事後課題の提出などmanabaを活用する場合がある。

生活情報処理特論I				単位数	2単位
授業コード	M7340	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	大東　正虎				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活経営論				

本授業の概要

情報化の進展に伴い、人々の生活や生活産業も変化してきている。本講義では、情報ネットワークの基礎を理解するために、情報通信ネットワークの役割、情報モラル、情報通信ネットワークの仕組み、情報セキュリティを修得する。
また、情報通信ネットワークを使った生活産業と消費者とのコミュニケーション手段が増えていることから、その違いを説明できるようにする。
そして、発信者の立場から情報デザイン、著作権の考え方を修得し、またウェブページ作成によって発信に必要な技術を習得する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	情報通信ネットワークの基礎的な考え方について説明することができる。	知識・技能
2	コミュニケーション方法の違いが説明できる。	知識・技能
3	情報デザイン、著作権を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	ウェブページを作成することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	通常レポート	1／2／3／4
2	最終レポート　(50%)	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１．情報化の進展と社会
２．生活産業における情報化の進展
３．情報モラル
４．情報通信ネットワークの仕組み　(1) コンピュータネットワーク
５．情報通信ネットワークの仕組み　(2) インターネットの技術
６．情報セキュリティ
７．目的に応じたコミュニケーション
８．情報デザイン
９．情報コンテンツの作成　(1) 著作権
10. 情報コンテンツの作成　(2) HTML 記述の基本構造
11. 情報コンテンツの作成　(3) 文字よる表現
12. 情報コンテンツの作成　(4) 表による表現
13. 情報コンテンツの作成　(5) 画像による表現
14. 情報コンテンツの作成　(6) Web ページ内リンク
15. 情報コンテンツの作成　(7) Web ページを相互にリンク

定期試験
最終レポート課題を提出
試験のフィードバックの方法
manaba folio などで解説を掲載する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習として、配布されたプリントの内容を事前に読み、講義時に操作ができるように準備しておくこと（約30分）。 復習として、内容や手順などを整理し、身近な事柄と関連づけて応用方法を考えること（約30分）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
必要に応じて資料を配布する。
オフィスアワー
月曜日4限。またはメールで受け付ける。
連絡先
daito@m.ndsu.ac.jp
留意事項
身近な事柄と関連づけながら、積極的な参加を望む。 各回 USB フラッシュメモリを必ず持参すること。

生活情報処理特論II				単位数	2単位
授業コード	M7345	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	大東　正虎				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活経営論				

本授業の概要

生活産業の特徴を理解するために、モデル化の方法とアルゴリズムを修得する。
また、シミュレーションを学習することによって将来の予測を立てることができるようになる。
さらにプログラミング技術を身に付けることによって、パターン化された処理を効率化することができるようになる。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	モデル化とアルゴリズムについて説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	VBA を使ったプログラミングができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	Excel を使ったデータベース活用ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	Excel を使ったシミュレーションができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	通常レポート（50%）	1／2／3／4
2	最終レポート（50%）	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１．モデル化とシミュレーションの必要性
２．モデル化の方法と種類
３．プログラムとアルゴリズム（1）プログラム開発と記述方法
４．プログラムとアルゴリズム（2）処理の手順
５．VBA を使ったプログラミング（1）VBA の特徴と基本構文
６．VBA を使ったプログラミング（2）シートを操作
７．VBA を使ったプログラミング（3）セルを操作
８．VBA を使ったプログラミング（4）変数の利用
９．VBA を使ったプログラミング（5）条件文の実行
10. VBA を使ったプログラミング（6）繰り返し処理の実行
11. VBA を使ったプログラミング（7）ダイアログボックスの活用
12. Excel を使ったデータベース（1）データの整理
13. Excel を使ったデータベース（2）見やすい資料作成
14. Excel を使ったシミュレーション（1）時系列データの分析
15. Excel を使ったシミュレーション（2）住宅ローン

定期試験
最終レポート課題を提出
試験のフィードバックの方法
manaba folio などで解説を掲載する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習として、配布されたプリントの内容を事前に読み、講義時に操作ができるように準備しておくこと（約30分）。 復習として、内容や手順などを整理し、身近な事柄と関連づけて応用方法を考えること（約30分）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
必要に応じて資料を配布する。
オフィスアワー
月曜日5限。またはメールで受け付ける。
連絡先
daito@m.ndsu.ac.jp
留意事項
身近な事柄と関連づけながら、積極的な参加を望む。 各回 USB フラッシュメモリを必ず持参すること。

生活経営論演習I				単位数	2単位
授業コード	M7350	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	豊田　尚吾				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活経営論				

本授業の概要

人間生活の主要な基盤を構成する生活経営分野に関する演習を行う。経済学、経営学的な視点で社会及び人間生活を観察し、社会課題を取り上げたうえで、それを調査、分析提案（発表を含む）する力を養う。
社会科学研究の方法論を身につけることに力点を置く。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	経済学、経営学的方法論を習得し、適切なデータの解析ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	社会課題に関する重要な論点を抽出し、言語化し、理論化できる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業中の発表内容・姿勢（75%）	1／2／3
2	期末レポート（25%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務経験あり

実務経験の授業への活用方法

長年、企業でビジネスに携わった経験を活かし、履修生の問題意識に現実性を加味するような指導を心がける。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回　生活経営論（概論）
第 ２ 回　ミクロ経済学
第 ３ 回　マクロ経済学
第 ４ 回　金融論
第 ５ 回　財政学・経済政策論
第 ６ 回　研究課題報告（1）RQ の明確化
第 ７ 回　研究課題報告（2）fact の確認
第 ８ 回　研究課題報告（3）既存研究のレビュー
第 ９ 回　研究課題報告（4）データの解析
第 10 回　労働経済学
第 11 回　消費者行動論
第 12 回　行動経済学
第 13 回　課題研究（1）論文構造の確定
第 14 回　課題研究（2）独自性の明確化
第 15 回　課題研究（3）期末報告

定期試験
期末レポート
試験のフィードバックの方法
manabaなどを用い、個人別にフィードバックする
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
論文作成が目的であるため、少なくとも3時間以上の準備は必要である。データの収集、既存研究のレビュー、考察、分析などに時間を費やす。 授業はその報告とディスカッションの場に過ぎないことを理解すること。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
検索資料、文献など。 （参考書）　『ミクロ経済学』西村和雄（東洋経済新報社） 『マクロ経済学』斎藤誠他（有斐閣）
オフィスアワー
月曜4限。変更があれば連絡する。
連絡先
toyota@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自ら進んで課題に取り組む「積極性」が不可欠である。

生活経営論演習II				単位数	2単位
授業コード	M7355	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	豊田　尚吾				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活経営論				

本授業の概要

人間生活の主要な基盤を構成する生活経営分野に関する演習を行う。経済学、経営学的な視点で社会及び人間生活を観察し、社会課題を取り上げたうえで、それを調査、分析提案（発表を含む）する力を養う。
特にデータを用いた仮説検証に力を入れる。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	経済学、経営学的方法論を習得し、適切なデータの解析ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	社会課題に関する重要な論点を抽出し、言語化し、理論化できる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業中の発表内容・姿勢（75%）	1／2／3
2	期末レポート（25%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務経験あり

実務経験の授業への活用方法

長年、企業でビジネスに携わった経験を活かし、履修生の問題意識に現実性を加味するような指導を心がける。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回　研究の方向性確認
第 ２ 回　発展研究（1）改善策
第 ３ 回　発展研究（2）取り組みの方向性明確化
第 ４ 回　経営学の基本
第 ５ 回　マーケティング論
第 ６ 回　新しいマーケティング論
第 ７ 回　消費者行動論（応用）
第 ８ 回　発展課題研究（1）論文構造の確定
第 ９ 回　発展課題研究（2）データの分析（基礎統計）
第 10 回　発展課題研究（3）データの分析（多変量解析）
第 11 回　幸福の経済学
第 12 回　新時代の経済を考える
第 13 回　新時代の人間生活を考える
第 14 回　最終報告（プレゼンテーション）
第 15 回　全体総括・振り返り

定期試験
期末レポート
試験のフィードバックの方法
manabaなどを用い、個人別にフィードバックする
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
論文作成が目的であるため、少なくとも3時間以上の準備は必要である。データの収集、既存研究のレビュー、考察、分析などに時間を費やす。 授業はその報告とディスカッションの場に過ぎないことを理解すること。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
検索資料、文献など。 （参考書）　『ミクロ経済学』西村和雄（東洋経済新報社） 『マクロ経済学』斎藤誠他（有斐閣）
オフィスアワー
月曜4限。変更があれば連絡する。
連絡先
toyota@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自ら進んで課題に取り組む「積極性」が不可欠である。

生活環境学特論I				単位数	2単位
授業コード	M7410	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	小川　賢一				
時間割備考	院生と協議の上で設定				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活環境論				

本授業の概要

本授業では、身近な地域環境の視点から自然の見方や文化、生活スタイル等を再認識したり、見直したりして、新しいまちづくり、および生活環境づくりを考える。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	基礎知識をもとに広い視野とバランスのとれた考え方を修得する。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	既存の概念や価値観にとらわれない考え方を修得する。	思考・判断・表現力
3	自身の生活環境や生活スタイルに応用する。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み姿勢・リアクションペーパー（30%）	1／3
2	定期試験（70%）	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．本授業の概論
２．自然との付き合い方（過去）
３．自然との付き合い方（現在）
４．自然との付き合い方（将来）
５．地域環境（身のまわりの生活）
６．地域環境（文化）
７．地域環境（自然）
８．地域景観
９．緑化活動
10. 身近な緑化（壁面緑化）
11. 身近な緑化（屋上緑化）
12. 身近な緑化（その他の緑化）
13. 地域と移動手段
14. まちづくりへ
15. まとめ
定期試験

定期試験
課題レポート
試験のフィードバックの方法
必要に応じてマナバ等を通じて適宜個別に行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業中に扱った内容を参考書やノート、教材等を使用などして、理解を深めておいてください。（2時間）
必携書（教科書販売）
特に指定しません。
必携書・参考書（教科書販売以外）
参考文献・資料は適宜、紹介ないし配付する。
オフィスアワー
授業後および在室中は随時受け付けます。
連絡先
s4026@m.ndsu.ac.jp
留意事項
開講日：4/15（土）、4/22（土；補講日）、5/27（土；補講日）、6/10（土；補講日）、７/1（土）、７/15（土）、７/22（土；補講日）、７/29（土）の予定で、 1・2限（2コマ）の集中講義です。ただし、休講の場合は補講日を別に定めます。

生活環境学特論II				単位数	2単位
授業コード	M7415	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	小川　賢一				
時間割備考	院生と協議の上で設定				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活環境論				

本授業の概要

本授業では、地球環境と地域環境の視点からさまざまな環境問題について現状の把握や分析等を行い、自身の生活スタイル等を再認識したり、見直したりして、将来の持続可能な生活環境づくりを考える。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	基礎知識をもとに広い視野とバランスのとれた考え方を修得する。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	既存の概念や価値観にとらわれない考え方を修得する。	思考・判断・表現力
3	自身の生活環境や生活スタイルに応用する。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み姿勢・リアクションペーパー（30%）	1／3
2	定期試験（70%）	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．本授業の概論
２．地球環境の現状
３．温暖化問題
４．水問題
５．食料問題
６．食料自給と地産地消
７．エネルギー問題
８．新エネルギー
９．地域とエネルギー
10. 人工化学物質
11. 化学物質と環境汚染
12. ごみ問題
13. プラスチックと生活スタイル
14. 持続可能な生活環境とは
15. まとめ
定期試験

定期試験
課題レポート
試験のフィードバックの方法
必要に応じてマナバ等を通適宜個別に行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業中に扱った内容を参考書やノート、教材等を使用するなどして理解を深めておいてください。（2時間）
必携書（教科書販売）
特に指定しません。
必携書・参考書（教科書販売以外）
参考文献・資料は適宜、紹介ないし配付する。
オフィスアワー
授業後および在室中は随時受け付けます。
連絡先
s4026@m.ndsu.ac.jp
留意事項
開講日：10/7（土）、11/4（土）、11/18（土）、12/2（土；補講日）、12/9（土）、12/23（土）、1/20（土）、1/30（火；補講日）の予定で、1・2限（2コマ）の集中講義です。また、休講の場合は補講日等を別に定めます。

住環境特論I				単位数	2単位
授業コード	M7420	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	成清　仁士				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活環境論				

本授業の概要

人が生活する上で大切な住環境・都市環境について講術する。歴史を振り返ることを通して、これからの日本に求められる住環境を探求する。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	これからの住まい方・生活のあり方を提言できる能力・思考を修得する。	思考・判断・表現力
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	講義の内容についての発表・口頭による論述内容・レポート課題・定期試験等を総合して評価する。	1
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回：授業ガイダンス
第 ２ 回：日本における住環境形成史−古代
第 ３ 回：日本における都市史−古代
第 ４ 回：日本における住環境形成史−中世
第 ５ 回：日本における都市史−中世
第 ６ 回：日本における住環境形成史−近世
第 ７ 回：日本における都市史−近世
第 ８ 回：プレゼンテーション、講評
第 ９ 回：近代以降の住まい方論−戦前
第 10 回：近代以降の住まい方論−戦後
第 11 回：日本の都市計画の歴史−戦前
第 12 回：日本の都市計画の歴史−戦後
第 13 回：日本のまちづくりの歴史
第 14 回：日本のまちづくりの現在
第 15 回：定期試験
第 16 回：授業ふりかえり

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
テーマごとに適宜、紹介・推薦する。
オフィスアワー
月3限
連絡先
narikiyo@m.ndsu.ac.jp
留意事項
テーマごとの課題を講義ごとにとりまとめ、発表することも求める。

住環境特論II				単位数	2単位
授業コード	M7425	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	成清　仁士				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活環境論				

本授業の概要

都市化・高機能化・超高齢化・少子化・景観・まちづくり等のキーワードをもとに、これからの日本に求められる住環境を探求する。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	これからの住まい方・生活のあり方を提言できる能力・思考を修得する。	思考・判断・表現力
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	講義の内容についての発表・口頭による論述内容・レポート課題・定期試験等を総合して評価する。	1
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 1 回：授業ガイダンス
第 2 回：歴史的環境デザイン論の変遷-近世以前
第 3 回：歴史的環境デザイン論の変遷-近現代
第 4 回：歴史的景観とまちづくり
第 5 回：日本における歴史的景観とまちづくり
第 6 回：倉敷における歴史的景観とまちづくり-成果と課題
第 7 回：プレゼンテーション、講評
第 8 回：歴史的景観とまちづくりに係る考察
第 9 回：住環境をとりまく日本の状況変化-内的要因
第 10 回：住環境をとりまく日本の状況変化-外的要因
第 11 回：これからの住環境形成に向けた問題分析
第 12 回：これからの住環境形成に向けたディスカッション
第 13 回：これからの住環境形成に向けた展望
第 14 回：総括
第 15 回：定期試験
第 16 回：授業ふりかえり

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
テーマごとに適宜、紹介・推薦する。
オフィスアワー
月3限
連絡先
narikiyo@m.ndsu.ac.jp
留意事項
テーマごとの課題を講義ごとにとりまとめ、発表することも求める。

食環境特論I				単位数	2単位
授業コード	M7430	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	小林　謙一				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活環境論				

本授業の概要

食環境の変容とメタボリックシンドロームとの関連性について論ずるとともに、
「食」によるメタボリックシンドロームの予防・改善が可能かどうかについて考
究する。

アクティブラーニングの実施内容	ディベート

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	生活習慣に起因する疾患の予防・改善が可能かどうかについて考究する	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	受講態度20点	1
2	論文読解20点	1
3	課題発表30点	1
4	課題レポート30点	1
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回：オリエンテーション
第 ２ 回：メタボシックシンドロームとは
第 ３ 回：メタボリックシンドロームと食生活
第 ４ 回：メタボリックシンドロームとロコモティブシンドローム
第 ５ 回：メタボリックシンドロームとフレイル
第 ６ 回：肥満と食生活・
第 ７ 回：糖尿病と食生活
第 ８ 回：加齢・老化と食生活
第 ９ 回：がんと食生活
第 10 回：慢性腎臓病と食生活
第 11 回：肝臓病と食生活
第 12 回：ニュートリシューティカル概論
第 13 回：疾患予防・改善のための食生活（１）
第 14 回：疾患予防・改善のための食生活（２）
第 15 回：総括

定期試験
試験のフィードバックの方法
課題発表やレポートに対する講評を行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前に課題論文の読解　45分 講義終了後に課題の抽出と復習　45分
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
国内外の学術論文を教材とし、適宜指示する。
オフィスアワー
月曜日4限目
連絡先
k4kobaya@post.ndsu.ac.jp
留意事項
特になし

食環境特論II				単位数	2単位
授業コード	M7435	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	小林　謙一				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活環境論				

本授業の概要

食環境の変容と「こころ」との関連性について論ずるとともに「食」による「こころ」の病の改善・予防が可能かどうかについて考究する。

アクティブラーニングの実施内容	ディベート

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	「こころ」に起因する疾患の予防・改善が可能かどうかについて考究する	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度20点	1
2	論文読解20点	1
3	課題発表30点	1
4	課題レポート30点	1
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回：オリエンテーション
第 ２ 回：「こころ」とは
第 ３ 回：「こころ」の疾患について
第 ４ 回：「こころ」と食生活について
第 ５ 回：疲労について（疲労科学概論）
第 ６ 回：疲労と疾患との関連性
第 ７ 回：疲労と食生活について
第 ８ 回：ストレスについて
第 ９ 回：ストレスによる疾患について
第 10 回：ストレスと食生活について
第 11 回：「こころ」と「からだ」を守る食品成分について
第 12 回：ニュートリシューティカル概論
第 13 回：疾患予防・改善のための食生活（１）
第 14 回：疾患予防・改善のための食生活（２）
第 15 回：総括

定期試験
試験のフィードバックの方法
課題発表やレポートに対する講評を行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前に課題論文の読解　45分 講義終了後に課題の抽出と復習　45分
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
国内外の学術論文を教材とし、適宜指示する。
オフィスアワー
月曜日4時限目
連絡先
k4kobaya@post.ndsu.ac.jp
留意事項
特になし

生活環境論演習Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	M7440	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	成清　仁士				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活環境論				

本授業の概要

人と住まいの生活環境、そしてその集合体でもある都市環境を研究対象として、
快適な住環境を創造するための諸問題を考察する。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

到達目標		対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	これからの生活環境の在り方について、特論を展開できる能力を身につける。	主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	演習の内容についての発表・口頭による論述内容・レポート課題・定期試験等を 総合して評価する。	1
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回：研究テーマの設定
第 ２ 回：研究方法の検討−Ⅰ研究対象
第 ３ 回：研究方法の検討−Ⅱ着眼点
第 ４ 回：文献報告−要点整理
第 ５ 回：文献報告−考察
第 ６ 回：関連資料等の報告−要点整理
第 ７ 回：関連資料等の報告−考察
第 ８ 回：生活環境に関する問題分析
第 ９ 回：生活環境に関する考察
第 10 回：都市環境に関する問題分析
第 11 回：都市環境に関する考察
第 12 回：文献報告−視点の拡張
第 13 回：他研究内容の比較検討報告−要点整理
第 14 回：他研究内容の比較検討報告−考察
第 15 回：定期試験
第 16 回：授業ふりかえり

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
テーマ毎に適宜、作成したものを配布、または紹介・推薦する。
オフィスアワー
月3限
連絡先
narikiyo@m.ndsu.ac.jp
留意事項
各自のテーマについて十分な考察を行い、その結果をとりまとめ発表する。

生活環境論演習II				単位数	2単位
授業コード	M7445	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	成清　仁士				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	生活環境論				

本授業の概要

人と住まいの生活環境、そしてその集合体でもある都市環境を研究対象として、
快適な住環境を創造するための諸問題を考察する。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	これからの生活環境の在り方について、特論を展開できる能力を身につける。	主体性
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	演習の内容についての発表・口頭による論述内容・レポート課題・定期試験等を 総合して評価する。	1
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回：伝統的住まいに関する考察
第 ２ 回：建築技術等に関する考察
第 ３ 回：伝統的住環境づくりに関する考察
第 ４ 回：伝統的生活環境に関する検討報告−Ⅰ分析
第 ５ 回：伝統的生活環境に関する検討報告−Ⅱ考察
第 ６ 回：生活環境に関する検討報告−Ⅰ分析
第 ７ 回：生活環境に関する検討報告−Ⅱ考察
第 ８ 回：論のとりまとめ・報告−Ⅰ研究成果
第 ９ 回：論のとりまとめ・報告−Ⅱ研究成果の意義
第 10 回：住環境に関する提案検討−Ⅰ分析
第 11 回：住環境に関する提案検討−Ⅱ考察
第 12 回：住環境づくりのとりまとめ・報告−Ⅰ提案
第 13 回：住環境づくりのとりまとめ・報告−Ⅱ残された課題
第 14 回：総括
第 15 回：定期試験
第 16 回：授業ふりかえり

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
テーマ毎に適宜、作成したものを配布、または紹介・推薦する。
オフィスアワー
月3限
連絡先
narikiyo@m.ndsu.ac.jp
留意事項
各自のテーマについて十分な考察を行い、その結果をとりまとめ発表する。